海徳海山の火山活動解説資料（令和７年２月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

海上保安庁が 2023 年５月以降、繰り返し実施した上空からの観測では、海徳海山の周辺海域での噴火は確認されず、顕著な変色水等の特異事象も認められていません。
このことから、海徳海山の周辺海域に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、２月 14 日 11 時 00 分に噴火警報（周辺海域）を解除し、噴火予報（活火山であることに留意）に引き下げました。合わせて、火山現象に関する海上警報を解除しました。
噴火の兆候はありませんが、今後も活火山であることに留意してください。

○ 活動概況

海徳海山では、2022 年８月 23 日に海上保安庁が実施した上空からの観測により、周辺海域に変色水及び浮遊物を確認しました。このことから、海底噴火が発生する可能性が高まったと判断し、同日、噴火警報（周辺海域）及び火山現象に関する海上警報を発表しました。

海上保安庁が上記の観測以降、同年 11 月までに実施した上空からの観測でも、引き続き、周辺海域で変色水が認められました。また、2023 年１月４日には気象衛星ひまわりの観測でも変色水を確認しました。

その後、2023 年５月から 2025 年２月までに繰り返し実施された海上保安庁による上空からの観測では、周辺海域での噴火は確認されず、顕著な変色水等の特異事象も認められませんでした。

このことから、海徳海山の周辺海域に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、２月 14 日 11 時 00 分に噴火警報（周辺海域）を解除し、噴火予報（活火山であることに留意）に引き下げました。合わせて、火山現象に関する海上警報を解除しました。

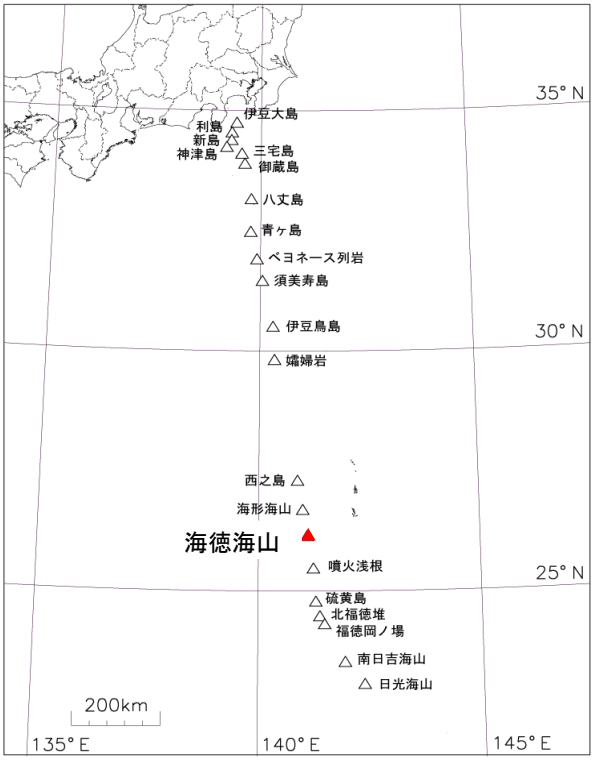
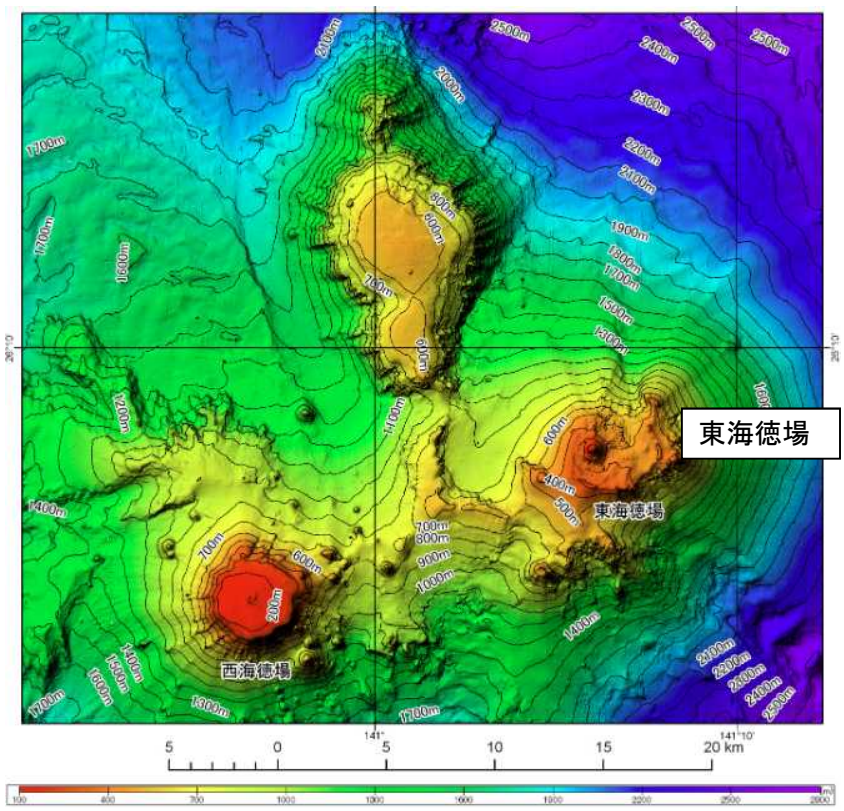


図１　伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び海徳海山の位置図
海徳海山は、東京の南約 1050 km、小笠原諸島母島の南西約 120km に位置します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は、海上保安庁のデータを使用しています。



海徳海山は３つの峰から構成されます。南にある２つの峰はその位置により，それぞれ東海徳場、西海徳場と呼ばれています。

図２　海徳海山付近の海底地形図

2022 年８月 23 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、海徳海山を構成する３つの峰の１つである東海徳場とほぼ同じ位置の海面上で変色水が確認されました。東海徳場の水深は 97m、位置は北緯 26 度 7.5 分、東経 141 度 6.0 分です。

（海底地形図、東海徳場の水深及び位置情報は海上保安庁海洋情報部　海域火山データベース（https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/kaiyo20-2.htm）を引用し、海底地形図には加筆）

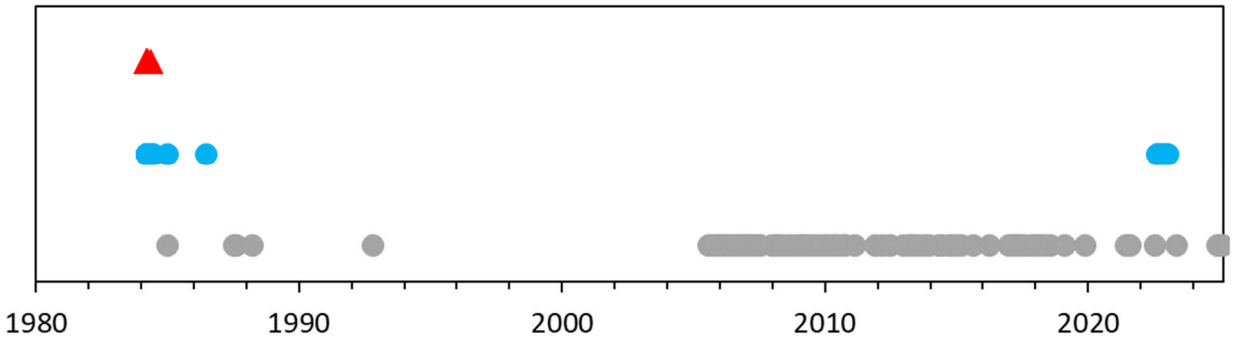


図３　海徳海山　1980 年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火、噴煙または軽石の浮遊（1984 年）が認められた観測を示します。●は変色水が認められた観測を、●は変色水等特異事象が認められなかった観測をそれぞれ示します。

海上保安庁、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。